



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：湾岸アラブ諸国との関係

(3月31日付イラン・ニュース紙ほか)

1. イラン国会安保外交委員会の声明 (31日付イラン・ニュース紙)

- (1) サウジアラビアは、敏感なペルシャ湾地域で火遊びをすることが国益とならないことを他のどの国々よりもよく知っている。サウジアラビアおよび UAE はバハレーンに軍隊を派遣し、情勢をより複雑にさせただけである。
- (2) 近隣アラブ諸国に対して、米国による域内の政策に追従するよりも、自国とイスラム世界の利益を考慮するよう求める。また、サウジアラビアがバハレーンから軍隊を撤退するように求める。
- (3) 世界の大敵である米国およびシオニスト体制は、イスラム世界を支配し、部族および地域間の不和を作り出し、内戦をしかけようとしている。

2. ボルージェルディー国家安保外交委員長の発言

- (1) クウェイトに関する発言 (日付不明シャルグ紙ほか)
 - ・ イランのクウェイトに対する政策は友好的なものであり、二国間関係の拡大に基づくものである。
 - ・ サッダーム・フセインがクウェイトを占領した時、イランが最初にクウェイトを支持したことを忘れてはならない。イラン・イラク戦争時に、クウェイトがサッダーム・フセイン政権に資金援助を行ったにもかかわらず、イランがサッダーム・フセインによるクウェイト占領後にクウェイトを支持したことは、イランがあらゆる占領に反対していることを示す。
 - ・ 最近のクウェイトによるイランに対する批判は、地域諸国やイスラム世界の関心をバハレーンでの残虐な殺戮からそらすために行われたものである。
 - ・ クウェイトが自国と地域の利益に基づいてその対イラン政策を見直すことを希望する。
- (2) バハレーンおよびサウジアラビアに関する発言 (4月3日付テヘラン・タイムズ紙)
 - ・ サウジアラビアのバハレーンへの軍事的関与は「占領」であり、速やかに撤退することを望む。このような措置は地域における安全の促進につながらない。バハレーンが独立した国家であり、OIC および国連加盟国であることを踏まえると、同国における外国軍の展開は「占領」と見なされる。罪のない同国民に対する殺戮はイスラム法および国際法に違反する。

- ・ シオニスト体制によるパレスチナ占領やガザへの残虐な攻撃のような主要な問題に沈黙し続けるサウジアラビアの政策は、イスラム世界の利益に合わない。

【中東調査会参考情報】

最近になってイラン・クウェイト関係が危うくなっている。3月29日、クウェイトの裁判所は、イランのためにスパイ行為を行っていたとして、クウェイト軍に勤務していたイラン人ら3名に対し死刑判決を言い渡した。翌30日、クウェイトの外相は、駐イラン大使を召還したことを発表した。